

# 空気ブレーキ

鉄道の全車種における基本的なブレーキ機構

圧縮空気を使うブレーキシステム。一部の例外を除くすべての鉄道車輛に装備されている。空気圧が下がるとブレーキが掛かる仕組みで、動作は確実。万一、配管が破損しても空気が抜けてブレーキが掛かることになり安全性が高い。いくつか種類があるが、ここではもっとも基本的なシステムを紹介する。



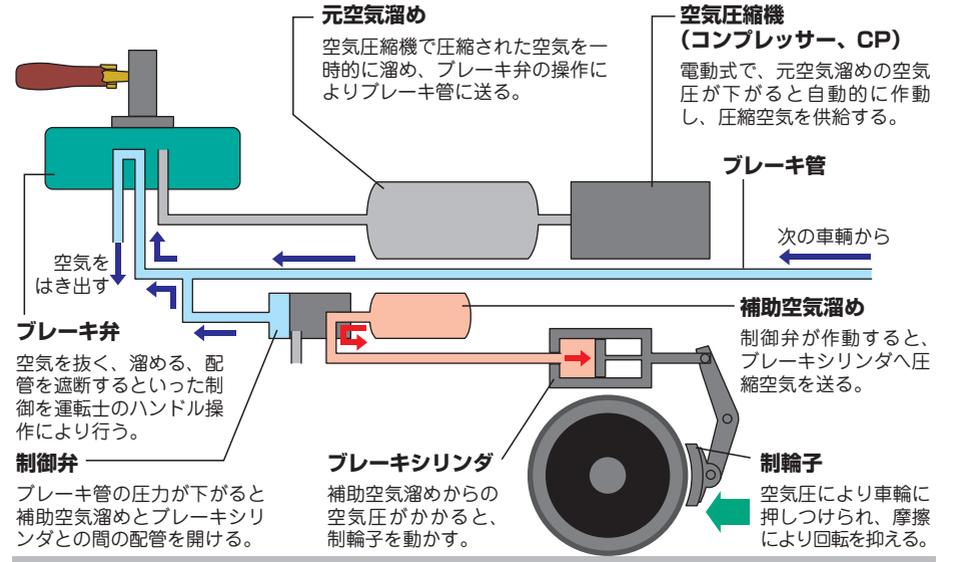
空気ブレーキは、台車に取り付けられたブレーキシリンダに送り込まれる空気の圧力で制輪子を車輪に押しつけて、摩擦の力で停めるブレーキ。鉄道車輛の基礎となるシステムである。



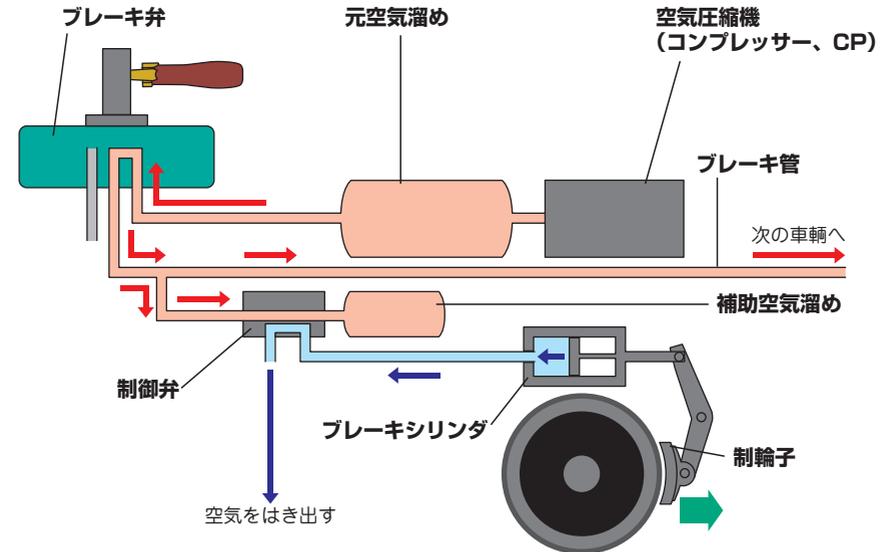
床下に吊り下げられている元空気溜め（写真はE231系のもの）。空気圧縮機で作られた圧縮空気を溜めておくタンクだ。空気を利用すると、圧力を伝えるものを補充する必要がないのも利点だ。

## 自動空気ブレーキのしくみ

### ブレーキをかけるとき



### ブレーキをゆるめるとき



### ⇒ Super Link

- |              |   |         |             |   |          |
|--------------|---|---------|-------------|---|----------|
| 運転台のインターフェイス | → | 基礎篇 P48 | 車輪間引通しのいろいろ | → | 基礎篇 P92  |
| 運転士          | → | 基礎篇 P50 | 電気や空気の供給    | → | 基礎篇 P94  |
| 電気(発電)ブレーキ   | → | 基礎篇 P64 | 油圧ブレーキ      | → | 新技術篇 P44 |